

## ● Letter to the Editor

## 呼吸器内科医の大学院進学の意味とロールモデル調査の不足について

寺本 信嗣

キーワード：大学院，医学博士，卒後教育

Postgraduate school, Doctor of Philosophy (Ph.D.), Postgraduate education

## 編集委員長殿

大学院進学のパラダイムが低下している現状での日本呼吸器学会将来計画委員会の「大学院進学」に関する調査研究は時宜を得たもので意義があります<sup>1)</sup>。しかし、データを集約、解析したことで、新たな問題点が浮き彫りになりました。まず、データ回答数が少ないため、無回答施設の進学率は、さらに低いことが予測され、現状を過大評価した可能性が否定できないことが挙げられます。また、博士課程4年の病棟担当期間などの重要な課題を調査できた一方で、進学して新たに学べた技術、論文作成能力、論文抄読能力、臨床能力の向上など、進学による、学位取得医師としての能力向上に関する調査は示されませんでした。働き盛りの4年間、大学院生と医師を掛け持ちするメリット、デメリットなどにも言及がなく、大学院進学を目指す医師へのメッセージ性に欠けている点は否めません。地位、収入だけでなく、やりがいや学問的満足感などの別の評価項目の調査で、今後、大学院進学を目指す医師へのメッセージを提示したいところです。また、調査研究とはいえ、過去の研究との比較、海外の研究との比較も必須であり、参考文献についての調査が不十分であると思います。さらに、卒後教育のなかで、大学院進学が果たす役割についても考察が必要であると考えます<sup>2)3)</sup>。

著者のCOI (conflicts of interest) 開示：寺本 信嗣；講演料 (アストラゼネカ, 日本ベーリンガーインゲルハイム, 杏林製薬)。他は本論文発表内容に関して申告なし。

## 引用文献

- 1) 高橋浩一郎, 他. 日本呼吸器学会会員における大学院進学に関する最近の動向. 日呼吸会誌 2021 ; 10 : 207-11.
- 2) Harmer A, et al. Global health education in the United Kingdom: a review of university undergraduate and postgraduate programmes and courses. Public Health 2015; 129: 797-809.
- 3) Tabin N, et al. Update of the ERS international Adult Respiratory Medicine syllabus for postgraduate training. Breathe (Sheff) 2018; 14: 19-28.

連絡先：寺本 信嗣

〒193-0998 東京都八王子市館町1163

東京医科大学八王子医療センター呼吸器内科

(E-mail: shinjit@tokyo-med.ac.jp)

(Received 6 Dec 2021/Accepted 12 Jan 2022)

Response to Letter to the Editor

## 呼吸器内科医の大学院進学とキャリア形成について

高橋浩一郎<sup>a,b</sup> 小林 信明<sup>a,c</sup> 金子 猛<sup>a,c</sup>

貴重なご意見をいただき誠にありがとうございます。まず、アンケートの回収率については、文献1に掲載した「(補足)表1」のように呼吸器内科の教授が在籍している施設の約7割から回答が得られており、さらに主任教授がいる施設に限定すると約8割から回答がありました。この高い回収率から、本アンケート結果は大学院進学が整っている施設における状況をかなり正確に反映しているものと考えております<sup>1)</sup>。今回の調査では、施設を代表して教授または医局長にアンケート回答を依頼し、大学院進学者をアンケート対象としていないため、ご指摘のような大学院進学者が取得できた技術、論文作成能力、臨床能力の向上などの細かい点まで詰めることができておりません。今後、大学院へ進学したことによるやりがいや学問的満足感を具体的に示すことは、若手会員にとって有益な情報になると考えます。

わが国では医師免許取得後の臨床研修が必須であり、若手医師において専門医取得が優先される傾向があります。米国では、1950年代からMD-Ph.D.プログラムが実施されており、研究医育成という点で成果を挙げています<sup>2)</sup>。わが国でも、米国のように卒前教育としてMD-Ph.D.プログラムを有する大学がありますが一般的ではないため、日本の大学院進学との直接比較は難しいと思われ<sup>3)</sup>。また、本学会において大学院進学状況の調査は今回が初めてであり、国内の他学会における大学院進学に関する調査報告も、ほとんどありませんでした。

ご指摘のように若手医師に大学院進学の魅力を適切に伝えられるように、次回は卒後10年以内の会員を対象としたWebアンケート調査を実施する予定です。今回ご意見いただいた点を明らかにできるように質問内容を検討していきたいと考えております。このたびは誠にありがとうございました。

著者のCOI (conflicts of interest) 開示：本論文発表内容に関して申告なし。

### 引用文献

- 1) 高橋浩一郎, 他. 日本呼吸器学会会員における大学院進学に関する最近の動向. 日呼吸会誌 2021; 10: 207-11.
- 2) Brass LF, et al. The national MD-PhD program outcomes study: relationships between medical specialty, training duration, research effort, and career paths. JCI Insight 2019; 4: e133009.
- 3) 東京大学大学院医学系研究科Ph.D.-M.D.コース：概要. <https://www.m.u-tokyo.ac.jp/utphdmd/gaiyou.html> (accessed on January 16, 2022)

<sup>a</sup> 日本呼吸器学会将来計画委員会

連絡先：高橋 浩一郎

〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島5-1-1<sup>b</sup>

<sup>b</sup> 佐賀大学医学部附属病院呼吸器内科

<sup>c</sup> 横浜市立大学大学院医学研究科呼吸器内科学

(E-mail: takahak@cc.saga-u.ac.jp)

(Received 8 Jan 2022/Accepted 12 Jan 2022)